心の和がけ　No.40

（2013／１～２）

p 01～01	三草二木のたとえ	p 03～03	青春時代の映画を楽しむ
p 01～02	定年を迎える知人に	p 03～04	早朝散歩再開
p 02～02	愛は幸福の財布	p 04～04	愛犬との別れ
p 02～02	見つめる鍋は煮えない	p 04～04	
p 03～03	福祉講演会に		

2013.01.06

・三草二木のたとえ

日課の石清水八幡宮での早朝ラジオ体操は２日から参加した。朝もやの中あちこちで「おめでとう御座います」と爽やかな旋律が心地よく流れてくる。幼い子が祖父母とともに赤いほっぺで「お早うございます」と大きな声で挨拶する姿に、ふれあいの基本である挨拶の大切さを祖父母の背を見て学ぶ、そして祖父母の笑顔に心が洗われ爽やかな新春体操の始まりである◆この世界には山があり、谷があり、川があり、海があり。 そして、そこには多くの小さな薬草、中ぐらいの薬草、大きな薬草もあり。大きな樹木も、小さな木も、きれいな花も、小さな花も、ありとあらゆる草や木があります。そこに雲が湧き等しく雨が降り注ぎます。その雨はたとえどんな小さな花にも大きな木にも平等に降り注ぎます。◆その雨をうけて、どんな小さな根も茎も枝も葉も、みんな生き生きと元気に成長します。降り注ぐ雨は平等ですが、小さな花は小さいなりに、大きな樹木は大きいなりに、その受け取る量はまったく異なります。それでもそれぞれが自らの命を精一杯輝かせ生き生きと成長していきます。◆小さな花が大きな樹をうらやむ事も、大きな樹が小さな花を見下すこともいらないのです。そうした現実世界には差別があっても 神仏のお慈悲は降り注ぐ雨のように、平等に注がれるのです。◆私たち大人も、将来を担う子ども達に光り輝く慈しみを注いで参りたい。

新年ご挨拶

◆本年の活動は１月２日から民生委員の配布物から始動する。希望に溢れた方々と会話を楽しみました。感謝

2013.01.13

・定年を迎える知人に

年賀状に今年４月に定年を迎える知人が６名、無我夢中で駆けてきた４０年、充実感と喜びが綴ら

れていた。拙生も１４年前に経験したものだ。人生は長くもあり短かくもある。今までの経験を活かして家庭に地域に役立てていただきたい。「５年・１０年・２０年と同じ仕事に、同じく熱心に力を集注すれば、遂には他の人に出来ないことを平気でやってのけるようになるであろう」武者小路実篤の言葉。「一筆啓上仕り候」のページに定年後に感じた拙生の感想を書いてみたが、ご参考になるかどうか！！

2013.01.20

・愛は幸福の財布

「恐れ山」の鼓膜形成手術も無事終了した。昨年の心臓と副鼻炎の手術に続いて、本年は左鼓膜形成手術と３回連続の手術、今は元気で日常生活には支障なく夫婦和楽の毎日。今日はアトリエで私はパソコン、「恐れ山」は洋裁と布ぞうり作成の復習。◆老人会で「布ぞうり教室」を３月に企画しており、もちろん参加費・材料費も無料１回１時間３０分を３回おこない、笑顔で楽しく「作って楽しく・履いて嬉しく」をキャッチフレーズにお茶を飲みながらおしゃべりでひと時を楽しんで頂ければ”いいなぁ～”と思っています。夫婦して地域活動これが今のライフワーク。◆病院に付き添いでいくが様々な人と出会う。園児だろう治療で痛かったのだろう待合室まで鳴き声が聞こえた。治療後に母親に「痛かったんだね」子は「うん」と頷く「よく頑張ったね、感心・かんしん」と頬を寄せ親の温かみの鼓動が伝わり、子は口はへの字だが目は大きく輝いている。親の慈愛を見ていると、「愛は幸運の財布である、与えれば与えるほど、中身が増す」ミュラーの言葉がよぎる。◆待合室の重苦しい中にあって、ほのぼのとした会話が待合室を暖かく包んでくれる。

2013.01.27

・見つめる鍋は煮えない

「見つめるナベは煮えない」と放っておく時間の大切さを云う西洋の諺があります。早く煮えないか、煮えないかと、絶えずナベの蓋を取って見ていては、何時までも煮えないという。あまり注意し過ぎていては、かえって結果は良くない。しばらくは見ないで、そのままにしておく時間が必要という教え。ある品が欲しいと頭の中で生まれたら、しばらく寝かせる。ふと思い出した時に、また考える。そして、さらに寝かせる。もう一回考えて、前より必要性を感じたりしたら、この品は必要と考えはかなり有望です。だが、そこですぐ品物を買うのではなく、もう少し温めて一度忘れてしまうのです。それでもまだ思い出すようであれば、それは自分に必要であり自己の成長やプラスになるのです。物が溢れ絶対必要なものは今はないのが現状。使い捨ては止めて必要なものだけを補充することを勧めたい。

2013.02.03

・福祉講演会に参加

昨日は八幡市民生児童委員協議会が開催した PR 事業の「福祉講演会」に参加しました。講演は「お笑いぜーションでノーマライゼーション」講師：全盲の落語家　桂　福点さん。自らの障害や体験を笑いに変えた創作落語で、観客を交えた軽妙な話術に音楽を志し音大で学んだ声楽から、オペラのアリアを熱唱テノールの艶がある美声に拍手喝さいである。観客との合唱から障害から生じる Q&A。健常者が目隠しをして商品の違いを指摘するなど盲目の不自由さも体験、負を笑いに導く前向きな精神と出会いを深める事を学んだ。通常では味わえない有意義な福祉講演会であった。

2013.02.10

・青春時代の映画を楽しむ

木曜日から胃からくる風邪ひき、夜中に鈍痛と５分ごとに差し込むような痛さに苦しんだが、土曜日に映画会を控え高齢者が楽しみにしていると思えば何としてでも回復を、金曜日は終日床につき回復に努めた結果、上映機器の搬入とセッティングも無事に終え開催した。映画鑑賞会は「王様と私」を鑑賞 1956 年作半世紀ほど前の作品だが、ユル・ブリンナー（アカデミー主演男優賞)、デボラ・カー(ゴールデングローブ主演女優賞)。劇中劇「アンクルトムの小屋」はアメリカ作品で流石だなーと思う。しかし、アメリカがつくる作品には「ラストサムライ」の明治天皇の御前会議の場面で「そんなことはないぜー」という場面もあったが、アジアで植民地にならなかった独立国はタイと日本だけ、ユル・ブリンナー役の王様は大変賢明な勉強家のだったに違いない。惜しいことにデボラ・カーは 2007.10 に 86 歳で死去。映画を鑑賞後、最近少なくなった優秀なミュージカル映画を懐かしみ「雨に唄えば」フレッド・アスティアや「波止場」マーロン・ブランドなど、自分たちの青春時代の作品に思いを馳せた。

2013.02.17

・早朝散歩再開

気温は零下１度、吐く息も白く身も引き締まる、無風で体感的には心地よい冷たさだ。先週からの風邪が完治せず 10 日振りの復帰である。久しく不参加でラジオ体操の方々が心配され、高齢のご婦人が訪ねてこられた。「お元気そうなので安心しました」と「皆さんが心配してます。無理をせず体調に合わせてご参加下さい」なんと素晴らしい労りの心遣いに、人間関係が気薄な現在だが、相手を気遣う言葉に元気を頂いた。◆励ましとは、相手に“希望の花“を咲かせること。人は皆、希望の種を持っている。相手に状況、おかれた環境を踏まえながら、それをどう芽吹かせ、育むか・・・。自分には、こんなに思ってくれる人がいる。その心が、どれだけ人の励みになることだろう。人は苦難を受ければ受けるだけ、他人の痛みが分かり自分も大きく成長する。◆「老年は男女間の友情には最も適した時代である」小説家、アンドレ・モーアの言葉にある。老年期には男女

間の精神的な交流に深い味わいが出てくる。さぁ～今日も地域の高齢者宅に近況伺いに行ってきます。

2013.02.24

・愛犬との別れ

出会いは人間ばかりではない。花鳥風月の自然との交わりも一つであり、また犬や猫との交わりは、会話は無くとも心で繋がり人は癒され家族の和楽に大きな役割を果たしている。生きるものにはその機会は無限でもある。出会いは豊かな五感力、健全な社会性、豊富な知識を得て己を育み、自身や家族の幸せが地域との絆が濃くなり地域活動の貢献へと実っていく。◆癒しといえば我が家にも愛犬がその役割を担っていた。家族４人の輪の中にあって団欒の中心的存在であり、朝夕の散歩は家族の健康にもつながり留守居役は大きな貢献であった。ましてや「喜怒哀楽」の怒り哀しみの時には愛くるしく首を傾げて、溢れんばかりのビー玉の眼で見られると心も和らぐ。その愛犬も妻の大小４回の手術の回復を見届けて１５年間の命を閉じたと拙生は捉えています。家族の一員となり和楽に寄与してくれた貢献は大きく、”よき出会いを有難う”来世には人類として誕生を祈りたい。

2013.01.～2013.02

END